

# 平成 29 年度 第 1 回 「地域活動実践講座」 報告書

日 時 平成 29 年 9 月 6 日 (水)  
 会 場 かでの 2・7 10 階 1030 会議室  
 参加者 27 名  
 内 容 1. 実践発表  
 2. グループ討議  
 3. まとめ

## 内 容

### 実践発表①

#### 「プラチナの会と留萌FMもえる」

発表者：三谷 馨 氏

#### 発表内容

- 1 FMもえる放送局の運営ボランティアとしての活動内容の紹介
- 2 札幌からおこなう支援内容
  - ・札幌の自然に関する話題提供
  - ・道民カレッジに関する情報提供
- 3 今後の課題
  - ・FMもえるとプラチナの会で連携講座を実施すること
  - ・遠隔通信機を活用した取組を実施すること



三谷氏発表の様子

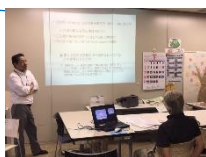


事前に、パワーポイント作成  
と発表練習を行いました。



牧田氏発表の様子

事前に、発表内容を検討し発表練習を行いました。



### 実践発表②

#### 「地域活動（町内会活動）の実践」

発表者：牧田 武治 氏

#### 発表内容

- 1 町内会活動
  - ・JR白石駅北口建設への取組
  - ・白石レンガを蘇らせる「思い出レンガプロジェクト」の立ち上げ
- 2 成果と課題
  - ・会員相互の交流が深まっていること
  - ・独居老人や子供の見守りを強化していくこと

## グループ討議 (4グループ)

### ①各グループ2名からレポート発表

発表者

A : 落合俊忠、平川省三

B : 石川弥一、山内ヒメ子

C : 榎本聡子、久保忠男

D : 早坂惇司、由田笑子

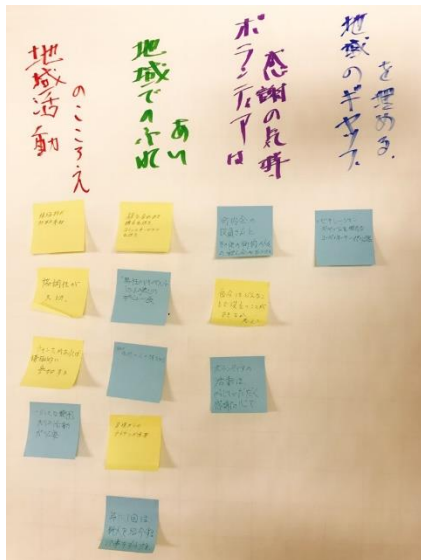
### ②意見交流 (グループごとに進行)

- ・ 発表の感想交流
- ・ 地域活動実践の現状
- ・ 地域活動実践上の課題

### ③付箋にキーワードを記載しグルーピング



グループ討議の様子



### 出されたキーワード

「意欲」・「信念」・「地域で楽しく生きる」・「健康になる」・「自主自立」・「積極性」・「共助」・「行動する」・「助け合い」・「見守り」・「挑戦」・「前向き」・「協調性」・「感謝の心」・「顔を合わせる機会」・「コミュニケーション」・「挨拶」・「自分はどんなことで役立つことができるか考える」・「声かけ」・「和顔施」・「参加すること」・「人生はまだまだ」・「自尊心を育てよ」・「一歩踏み出す勇気」・「寛容」・「QOL」・

### 出された意見

- ・ 地域活動に参加している人は、自分の意志を持っている。
- ・ 普段、顔しか知らない人が場面を設定すると、きちんと話しをする。素晴らしい事です。今回はそういうメンバーが集まっている。それが、地域に帰ると参加しない人、会費を払わない人、連絡がとれない近所住民がいる。それが問題だ。
- ・ 地域活動は参加することで健康になり、行動力が生まれ、又、楽しんでいる。
- ・ 団塊の人々が行動することで元気が出る地域になると感じた。
- ・ どの地域も人の集いの悪さが問題だった。
- ・ 発表者が熱心に地域活動を実践している実態を身近に感じた。
- ・ それぞれの人々が、それぞれ独自の考え方で多種多様な事を展開し、ゴールは一つ地域活動の活発化につながるものであることを再認識することができた。
- ・ みんなが楽しく過ごせる、そうした場が必要である。
- ・ 古郷納税の様に、出身地にボランティアをしている事を知り感銘した。
- ・ 皆様が多様に活動している事がわかった。

- ・活動されている方の気苦労が十分に伝わってきた。参加者も積極的な意見を出し合って、より活発的な活動につながっていれば・・・小さな一人ひとりの活動努力が大きな輪になっていくのだと強く感じた。
- ・様々な実践に取り組んでおられる方を知ることができ有意義であった。ただ、その輪を広げていくことに苦慮されているという意見が多かった。
- ・地域実践、ボランティアを通して互いを思いやり、潤いのある地域づくりのため、どうしたら良いのか議論を深めてみたい。
- ・故郷への思い、地域への思いが強く感じられた。その思いがあるからこそ、活動へ向かっていくと思う。
- ・生きがいを見つけて人生を楽しく地域活動に参加して自分を将来において共通の仲間を作り、活動していきたい。
- ・牧田氏の発表を聞いて自分で何ができるのか今一度考えてみたいと思いました。特に地域での高齢者の見守りについて考えてみたい。
- ・いろいろなボランティアがあると知って驚いた。
- ・私も道民カレッジで学習したことをいかしてボランティアの活動をもう少し増やしていけたらと思う。

## まとめ

### ①事業のねらい

- ・第三次基本構想
  - 学んだ成果を地域で発揮する機会が少ない
  - 実践内容や課題を共有することの必要性が大きくなった

### ②地域活動例の紹介

- ・夕張市の高齢者による学校支援内容の紹介

### ③今後の活動

- ・今回の発表内容や意見交流の内容を是非今後の実践に生かしてほしい



まとめの様子

成果・課題・今後の取組

	DO 実行	CHECK 評価	ACTION 改善	PLAN 計画
講座内容および構成の工夫	実践発表を実施	発表内容が参加者から講評であった	予定時間を大幅にオーバー	・クッション時間の確保 ・事前練習の実施
	グループ討議を実施	もっと話を聞きたかったという意見が出ていた	発表時間の確保が必要	1 グループあたりの人数を4人程度に→発言時間の確保
	地域活動に関するアンケートを実施	講座に参加した道民カレッジ生の地域活動の実態把握ができた	今回参加していない道民カレッジ生の地域活動の実態把握が必要	地域活動実践に関する情報収集を継続実施 →道民カレッジ HP の地域活動紹介ページの充実
		「地域活動していない」と回答した8人のうち7人が「今後してみたい」と回答	その回答者の行動の変容を見守り、支援	次回以降の地域活動実践講座内でモデルケースとして紹介 →実践発表
かでのる2・7にて講座実施	札幌市(25人)、滝川市(1人)、室蘭市(2人)からの参加	札幌市以外の地域への発信と支援が必要	遠隔通信機を活用した他圏域での同時開催を検討	
参加者数増に向けた取組	参加者27名	チラシを作成しまなびの広場に配架、他事業で配布	日程が決まらず、十分なPRができなかった	平成29年度後期ガイドブックにて実施日を周知(平成30年2月21日実施)
		道民カレッジHPやTwitter、Facebookで広報		

今後のイメージ

